

学校事務実践講座

「学校財務領域への関わり～就学保障の観点から～」

2月に、学校事務実践講座をラッセホールで開催しました。この講座は、兵庫教育文化研究所【学校行財政部会】が、学校事務職員の“より積極的な学校運営への参画”をめざす中で、学校事務職員の「研修」の一つとして企画・実施しています。

今次講座では、2022年2月に発行したリポート「子どもの就学保障を考える」をもとに、各地域組合の実態等の意見交流を通して、教職員や関係機関との協力・協働により「等しく学べる教育環境」を整備するため、学校事務職員として何ができるのかを考える機会とすることを目的としていました。

新型コロナウイルス感染症の流行によって、家庭の経済状況や自治体の財政状況にも影響がおよび、憲法等が保障する「すべての子どもが等しく教育を受ける権利」が保障されていない状態にある今だからこそ、学校財務領域の視点でどのようなアプローチができるかを考える必要性について問題提起がされました。「保護者負担軽減」、「家庭の経済力による格差へのアプローチ」、「自治体の財政力による格差へのアプローチ」として教職員ができる3つのとりくみについて、具体的事例をもとにして提案されました(右図参照)。子どもの就学保障の現状と課題を共有し、実際にどう教職員が関わっていくことができるのかを参加者自身が考えさせられる問題提起となりました。



後半のグループワークでは、問題提起を受け、教職員やさまざまな関係機関と協力・協働する中で学校事務職員が果たすべき役割を考えるとともに、各地域組合の実態等を意見交流しました。

また、各地区・地域組合の徴収金や就学援助事務の状況について情報交換しました。同じ県内でも、就学援助の対象経費が大きく違うことや、予算配当状況も様々で、用紙代を保護者から徴収せず公費で支出している学校もあることが話題になる等、就学保障の観点から各校の現状を見つめ直すよいきっかけとなりました。

「就学援助費と言っても、その内容や取扱事務、誰がどのように担当するのかは地域によって様々であることがわかった。事務職員の仕事、関わり方も何がベストなのか、多忙化の中でどの程度、どのような形で関わっていくのか考えさせられた。それぞれ状況は違うが、等しく学べる教育環境を整備していく視点で、自身も学校運営に関わっていかうと気持ちを新たにした」、「同じような気持ちでいる仲間がいることに安堵をした。他市町の状況を聞き、自分のところでもできることがあると気づかせていただいた」、「対面でのこのような機会はとても貴重で、with コロナ・after コロナ対策を講じながらではあるが、引き続きこのような機会があればありがたい」といった感想が寄せられました。

参加者のみなさんが本講座で得た学びをもとにして、すべての教職員がそれぞれの職種の専門性を生かしながら協力・協働のもと、子どもの就学保障を考え、等しく学べる教育環境整備のとりくみをさらにすすめていくきっかけとなることを期待しています。

『子どもの就学保障を考える』のリポートは各地域組合・分会・事務職員部員に配付済みですが、兵教組 HP(組合員専用ページ)にも掲載していますので、ご覧ください。【ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください】

